上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく　すこやかな　上矢作の子

大船山

第　19　号
令和 5 年 2 月 14 日

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/

後生可畏（こうせいかい）

校　長　　細江　幸次

１月20日には本校を会場に初めての漢字検定を実施することができました。冬休みの家庭学習の目標づくりのひとつとして行ったわけですが、40名弱の申し込みがあり、人数だけでも予想以上の結果となりました。この中には小学校からの呼びかけで中学生7名、一般の方も7名の申し込みがあり、本校の上矢作っ子たちによい刺激を与えることができたのではないかと受け止めています。漢字検定実施の言い出しっぺである私も恥ずかしながら今回の検定に参加をさせていただきました。子どもたちと同じようにこの冬休みは特に出かけることもなく、自室で問題集に取り組んできたわけですが、カメのような歩みではあっても力が付いていることが結果となって表れると喜びを感じるのは子どもたちと何ら変わることはありません。また、私以外に受検した一般の方の姿は社会に出ても学ばなければならないことを実際の姿で示していただいたと感じています。

漢字検定の勉強をしている中で、「後生可畏」という四字熟語に出会いました。一般には「後生畏（おそ）る可（べ）し」と訓読で用いられることが多いそうで、論語の中にも出てくる言葉なのだそうです。意味は、「若者は今は未熟でも来るべき時代の息吹を敏感に感じ取り、将来の大きな可能性を秘めているから、侮ってはならず、むしろ敬うべきである」となります。

正直、この言葉の意味を調べてみて、教育に携わる私たちにとって大きな意味をもつ言葉であると感じました。この言葉をきちんと理解できていれば毎日の授業をはじめとする教育活動に取り組む姿勢も変わってくるはずですし、以前本欄で書かせていただいた子どもたちへの3つの寄り添い方「率先垂範・師弟同行・卒啄同機」の大切さを改めて感じることができます。また、教育に携わるものに限らず子どもたちの周りにいる大人も子どもたちの将来を見通した上で「厳しさと愛情」で接していかなければなりません。この厳しさは色々と制限をかけ不自由さを感じる厳しさだけではありません。目の前の可愛さに負けるような猫かわいがりの愛情でもないはずです。時代の息吹を敏感に感じ取ることができるように今何をすればいいのか、将来の大きな可能性を引き出すために今から将来につながる生活をどのように送ればいいのかを目先のことだけにとらわれることなく過ごしていく必要があることを教えているように思います。

論語では、この言葉の後にまだ続きがあり、以下のようなことが述べられています。

四十五十而無聞焉、斯亦不足畏也已矣。（四十五十にして聞こゆること無くんば、斯（それ）亦（また）畏るるに足たらざるのみ）

（四十、五十の年になって、世間の評判が立たないようでは恐れることはない。）

ある意味、子どもたちにも厳しい目を向けているとも言えます。一方、冬休みにこんな言葉も見つけました。

「言葉」は「意識」を変え、「意識」は「行動」を変え、「行動」は「結果」を変える。

国分秀男（元古川商業高等学校女子バレーボール部監督）

Topic

■５年生のこども園訪問

１月３１日(火)、５年生が上矢作こども園を訪問し、年少から年長までの園児と交流をしました。過去に行ってきたこの訪問では、次年度入学してくる園児対象に歯みがきの仕方を伝えることを行ってきましたが、この２年間は感染防止のため中止になっていました。また、こども園では現在歯みがきは実施していないということなので、学校紹介のほかに全園児と一緒に遊ぶことを行いました。

園児を前に話をする５年生の面々は随分緊張した様子で、なかなか練習通りにはいかなかったようです。４月からは全校児童を前にして似たような場面が増えるので、その意味ではいい経験になったことでしょう。いっしょに遊ぶところでは緊張感もなくなり、楽しみながら様々な場面で園児に気を使っているところが見られました

学校紹介

園児と一緒に遊ぶ

■歌声集会

２月３日(金)の朝活動で歌声集会を行いました。これはコロナ対応が緩和された１１月末より再開し、「今月の歌」をどんなところに気をつけて歌ったらいいのか等を知る集会です。コロナ対応が緩和されたといっても、感染者数はそれほど変化していないので、感染対策には十分配慮して行っています。

２月からはいよいよ卒業式を想定した取組になっています。過去３年近く、学級や全校で歌うことをほとんど行っていないため、なかなか声が出なくなっているのが現状です。卒業式における唯一全校児童が感謝と別れの気持ちを表現できる場となるので、ここでも「日常」と「行事」を両輪とした取組として意識的に取り組んでいきたいと考えています。

久しぶりの合唱の取組

■理科公開授業（３～６年）

２月９日(金)、第５校時に１・２年生はドローンを活用したプログラミング学習、３～６年生はそれぞれ理科の授業を公開しました。これは来年度１１月に本校を会場にして開催される岐阜県小学校理科研究会研究大会に向けての取組です。県内各地から指導者をはじめとする研究会の先生方が来校し、各学級の授業を熱心に参観されていきました。発表会当日の環境面(出入り口、駐車場、全体会場、教室環境　等々)を視察し円滑な会場運営について検討をするとともに、上矢作っ子の学ぶ様子にもかなり高い関心をもって参観されていきました。上矢作っ子は単に観察、実験をやって楽しむ段階から、適切に観察、実験を行って的確に事実を見つけ出し、これまでの学習経験や生活経験を関係づけながら考える面白さを感じるところまで子どもたちの姿は高まってきています。キラリと光る上矢作っ子のセンスと力を少しずつ積み上げていきたいです。

３年生

４年生

６年生